

刑法討論会 2018 (第20回記念大会) 決勝大会事例問題

各チーム立論9分 (レジュメA3サイズ1枚、スライド10枚以内)

作戦タイム 1分

討論 (質疑) 8分

長年勤めた会社をリストラされ、生活に困っていたX (48歳) は、何回か客として訪れたことのあるスナックの経営者A (65歳) を睡眠薬で眠らせて金品を奪取することを計画し、自ら睡眠薬を手に入れた上で、不倫相手のY女 (36歳) に対して計画を打ち明け、「Aに酒を飲むように勧めて、話を盛り上げてくれればいいから」などと計画に加わるように話を持ちかけたところ、Y女は了承した。そこで、XとY女は、Aに睡眠薬を飲ませて眠らせる段取りを相談した上で、12月13日木曜日午後9時過ぎにAのスナックに入った。他の客が帰ったところで、Y女がAにビールを飲むように勧め、XがAの隙を見てビールグラスに睡眠薬を入れて飲ませた。ところが、Aは意識がもうろうとはしたものの、なかなか眠るには至らなかったため、Xは業を煮やして、暴行を加えて何が何でも金品を奪ってやろうと考えるにいたり、「いい加減にくたばれよ！」などと叫びながら、Aの顔面を数回殴り、腹部を2～3回足蹴にしたところ、Aは口から血を流して意識を失ってしまった。この間、Y女は傍らで様子を見ていた。Aが動かなくなったことを確認したXは、Aのバッグから現金15万円を奪い、近くに立っているY女に対して、「お前もレジから金を取って早く逃げろ！」と叫んで店を飛び出していった。Y女は、ここまでするつもりはなかったのにといいながらも、言われたとおりにレジから現金3万円を抜き取って自分のバッグに押し込んだが、血を流して倒れているAの姿を見て申し訳なくなり、ケータイで救急車を呼んで店を出て行った。

救急車が到着したときにはXとY女はすでに立ち去っていたが、店の中で倒れているAが救急隊員によって発見され、救急車で運ばれた。Aは救急車の中で一時意識を回復するなど、命に別状はないようにも見えたが、どの救急病院からも受け入れを拒否され、他県の病院に搬送せざるを得なくなった。ところが、Aの容態は救急車で搬送中に急変し、4時間後に他県の救急病院に到着したときには手遅れとなり、その日の深夜に内臓破裂による出血多量が原因で死亡してしまった。救急隊員に発見されてから2時間以内に救急病院で適切な処置が行われていれば、Aは命を落とすことはなかったことが分かった。

この事例におけるXおよびY女の刑事責任を論じなさい。